

留学生受け入れにかかる日本語教育の重要性について

学校法人江副学園 新宿日本語学校 江副隆秀理事長

【はじめに】

学校法人江副学園新宿日本語学校の江副隆秀です。
本日はよろしくお願ひします。

始めに本校についてご紹ひします。私の学校は新型コロナウイルス感染症の流行以前は外国人学生 600 名程度が在籍していたのですが、この2年間はほとんど学生が来校しない状況が続いています。

2020年3月、政府の要請で小学校が全面休校になり、本校も休校となりました。ただ、以前からグーグルクラスルームを使用していたため、対面授業からほぼ1日の研修でスムーズにリモート学習体制に移行できました。その後はずっとオンライン授業を続けています。オンライン授業の開始時には、既にNTTと協力して作成していたLMS（ラーニング・マネージメント・システム）のVLJ（ビジュアル・ラーニング・ジャパニーズ）などと一緒に漢字学習アプリ等を使用することにしました。

スムーズに授業は開始できたものの、入国待機の学生のうち、近隣諸国では問題ありませんでしたが、ヨーロッパの学生向けには夕方5時から授業を開始したり、現地で夕方に学習を希望する学生のために午前3時から授業を行うなど、一時は対応が大変な時期もありました。



【日本文化から生まれた漢字】

今日は、これまで私が日本語教育を継続してきた上で感じた、日本語の素晴らしさや面白さの例をお話させていただきます。

始めに、長野県の有名な諏訪神社の「御柱祭」と漢字の関連性についてです。有名な場面なので、皆様もテレビのニュースなどでご覧になったことがあるかも知れませんが、氏子によって「木落とし」された木々は、祭りの後に最終的に何処へ行くか皆さんご存知でしょうか。実は各大社の四角に運ばれ、そこに刺すような形で納められます。

木の中央にあるのが神社ですから、大切な神社「示（しめす）」を木で四角から抑えると、この木によって守られた場所は聖域となります。聖なる場所だから入ってはいけない、つまり漢字の禁止の「禁」の字はこの形を表しています。諏訪神社にこれがあるのは、漢字と同じ文化を持っていた人々が日本にやって来たのだと思います。同じ文化を持っていても、一方は「禁」という漢字を広めていき、他方は多分、漢字ができる以前に、「禁」を祭りという文化として残したのではないかと考えています。

諏訪神社の「御柱祭」はあまりに古く、いつから始まったのかは分からないそうですが、こういう文化が日本には多く残っています。実際に、諏訪地方に行くと、大小様々な神社が4本の柱に囲まれています。小さな祠（ほこら）も含め、この地域の古くからの習慣が残っていることを実感させられます。

さらにもう一つ、「土」という漢字の原型は土を丸くして台の上に置いたような形でした。土を盛った部

分が漢字として残りました。意味は人が集まるということです。ここに先程と同じ「示」を加えると、社会の「社」という字になります。

日本の習慣の中にはかなり古いものが多く、漢字の成立とも関係があります。

鳥取市の青谷上寺地遺跡からは、木製の「戈」(ほこ)が出土しています。

「戈」は中国では馬車の上から振り回す武器なのですが、日本の遺跡からは木製の「戈」が見つかりました。武器としてではなく、宗教儀式に使用していた物だと分かります。武具ではなく儀式でしか使用しないため、日本では儀式の時に使う「エ」を加えた「式」という漢字に変化したと説明すると、留学生もよく理解してくれます。更に、本来金属であるべきものの「かわり」即ち、「代わり」に使うのだという、これも留学生がよく理解してくれます。また、「式」の前に「良いか悪いか」を言葉で試す意味で試験の「試」という漢字に変化しています。

調べてみると、日本語の奥深さに驚き、日本の皆様にもお伝えしたい、お教えたくなるほど、興味深いものです。

今、皆様にお見せしているように、映像での教育の方が漢字は記憶しやすいと考えています。例えば「学」という漢字を教える時にも、「子供が学ぶ」という意味を映像で見せます。さらに、覚えるということは「見て覚えるのですね」と言って、「子」を「見」に変えると、留学生も、「なるほど、」と言い、覚えてくれます。漢字学習とはこのような面白いベースの上にあるのかなと考えたりしています。

【理解しやすい日本語教育を】

ところで、英語では「主語、動詞、目的語」が「SVO」の順となっていると言われていて、日本語は「SOVの順だ」と言われています。

でもそれは間違いだと思います。

例えば、「行く」という単語を、自分に関して言う時は「参ります」と言い、相手に関して言う時は「いらっしゃいます」となります。それ以外にも、「食べます」は「いただきます」、「召し上がります」などと自分と他人で、使い分けます。

私は、日本語の「主語・動詞」が実は一体となっていて、その部分がSVなのではないかと思っています。

そこへ情報が付くのですが、日本語はその情報を先に言って、「学校」という情報と「行きます」という述部の間に「へ」などが入り、「学校」と「(私) 行きます」がどういう関係にあるかを示しているのだと思っています。

その点、英語は述部が先ですから、「私・行きます」が述部で、そこに「学校」が付いてきます。

そのため、「学校」の前に「へ=to」といった助詞が入ります。

結果的に英語の場合は、「学校」の前に「to」という助詞が入るので、これは「前置詞」と呼ばれる形になりました。その点、日本語では、「学校」という情報の背後にの「へ」という助詞が付くので、「助詞」は位置的に、後置詞になります。

私はこのことを理解すると、日本人の英語は上手になると考えています。こうした全貌を理解することなく、「日本語には主語が無い」などと学習したため、日本人の英語学習は躓いたままになっているのではないかと思っています。これは外国人に日本語を教えるという作業をしている時に、この全貌が理解できた外国人学生は日本語が上手になる傾向があるという印象を強く持っています。

オンラインであろうが対面であろうが、構造的に教えて、内容が分かりやすいのが一番だろうと考えています。

私は例えば「を」という助詞を外国人に教える時にはカードを見せ、四つの使い方をまとめて教えます。

①通過場所としての「を」は、浜辺を歩く、空を飛ぶ、海を渡るというように使用します。

次の②は離脱場所としての「を」を教えます。この時は、矢印のみを残して、離れるイメージを伝えます。そして、「バスを降りる」「大学を卒業する」「席を立つ」のような離脱の「を」を紹介します。

③つ目は「を」のカードの矢印や尻尾の部分を両方手で消すようにして、ただの「対象」として利用する「を」を教えます。例文は「パンを食べる」「テレビを見る」のようなものとなります。

最後に「を」のカードを裏返して、私達が「する名詞」と呼んでいる名詞の直前や、直後につける「を」に付いて説明します。これは、一部お単語に「する」を付けると、「勉強する」のように「動詞」になりますが、するをつけない「勉強」だけだと「名詞」になるというようになります。

こうした「品詞と助詞」の関係は、平仮名や漢字で書いただけでは文章から発見しにくいものです。図形化して見ることで、日本語を分けることが容易になります。例えて言えば、通常言われる「科学文法」は助詞の「に」を説明するとき、①「6時にきます」の「に」は「時間の『に』」、②「机の上にあります」の「に」は「場所の『に』」、③「山田さんにあげます」の「に」は「授受の『に』」などのように、学問として日本語を分類するものです。「に」の場合は、「指している」という助詞のカード1枚で「時間を指し」「場所を指し」、「人を指す」の大半の「に」の役目をカード一枚で示してしまうのです。その意味で、メタ文法は「学習と教育のための文法」と呼ばれる訳です。ストレートにその助詞の本来の意味、の表示だけで、教育が可能なので、オンライン授業でも外国人は日本語の構造を図形で見て理解できるのです。

【ウクライナの学生に日本語教室支援】

令和4年5月19日（木）朝日新聞 朝刊 掲載

2022年(令和4年)5月19日(木)

避難生活 日本語学び笑顔

文化庁 ウクライナ人向けオンライン教室

ウクライナから日本に避難してきた人を対象にしたオンラインの日本語教室が17日に始まった。文化庁が

このプログラムに申し込みたい。初日のクラスに参加した。授業の最初は緊張した表情だったが、講師に合わせた声を出すうちに笑顔になつていった。女性はオンライン授業について話をし、「とても気に入っている。速くに通わなくて良いので時間の節約になり、雰囲気の良いので、私には合っている」と語った。7月上旬までの平日の午前と午後、2時間ずつ授業を受ける予定だ。ウクライナ人を受け入れた地方自治体が、日本語教育の機会を提供できない場合、文化庁に参加を申請する。委託する日本語学校は、シリアやアフガニスタン、ミャンマーなどから避難した人を受け入れたオンライン授業のプログラムがある。ウクライナから避難してきた人がいる、というのが条件だ。受講の上限は150時間。教材も受講料も受講者の負担はないが、パソコンなどの機器や通信環境は、自治体などの支援を想定している。少人数制で、留学志向と違って生活する上で必要な日本語の表現を重視する。人数が増えれば、随時新たなクラスを開くという。

文化庁は、ウクライナから避難してきた人を対象にしたオンラインの日本語教室が17日に始まった。文化庁が

このプログラムに申し込みたい。初日のクラスに参加した。授業の最初は緊張した表情だったが、講師に合わせた声を出すうちに笑顔になつていった。女性はオンライン授業について話をし、「とても気に入っている。速くに通わなくて良いので時間の節約になり、雰囲気の良いので、私には合っている」と語った。7月上旬までの平日の午前と午後、2時間ずつ授業を受ける予定だ。ウクライナ人を受け入れた地方自治体が、日本語教育の機会を提供できない場合、文化庁に参加を申請する。委託する日本語学校は、シリアやアフガニスタン、ミャンマーなどから避難した人を受け入れたオンライン授業のプログラムがある。ウクライナから避難してきた人がいる、というのが条件だ。受講の上限は150時間。教材も受講料も受講者の負担はないが、パソコンなどの機器や通信環境は、自治体などの支援を想定している。少人数制で、留学志向と違って生活する上で必要な日本語の表現を重視する。人数が増えれば、随時新たなクラスを開くという。

文化庁は、ウクライナから避難してきた人を対象にしたオンラインの日本語教室が17日に始まった。文化庁が

このプログラムに申し込みたい。初日のクラスに参加した。授業の最初は緊張した表情だったが、講師に合わせた声を出すうちに笑顔になつていった。女性はオンライン授業について話をし、「とても気に入っている。速くに通わなくて良いので時間の節約になり、雰囲気の良いので、私には合っている」と語った。7月上旬までの平日の午前と午後、2時間ずつ授業を受ける予定だ。ウクライナ人を受け入れた地方自治体が、日本語教育の機会を提供できない場合、文化庁に参加を申請する。委託する日本語学校は、シリアやアフガニスタン、ミャンマーなどから避難した人を受け入れたオンライン授業のプログラムがある。ウクライナから避難してきた人がいる、というのが条件だ。受講の上限は150時間。教材も受講料も受講者の負担はないが、パソコンなどの機器や通信環境は、自治体などの支援を想定している。少人数制で、留学志向と違って生活する上で必要な日本語の表現を重視する。人数が増えれば、随時新たなクラスを開くという。

文化庁は、ウクライナから避難してきた人を対象にしたオンラインの日本語教室が17日に始まった。文化庁が

このプログラムに申し込みたい。初日のクラスに参加した。授業の最初は緊張した表情だったが、講師に合わせた声を出すうちに笑顔になつていった。女性はオンライン授業について話をし、「とても気に入っている。速くに通わなくて良いので時間の節約になり、雰囲気の良いので、私には合っている」と語った。7月上旬までの平日の午前と午後、2時間ずつ授業を受ける予定だ。ウクライナ人を受け入れた地方自治体が、日本語教育の機会を提供できない場合、文化庁に参加を申請する。委託する日本語学校は、シリアやアフガニスタン、ミャンマーなどから避難した人を受け入れたオンライン授業のプログラムがある。ウクライナから避難してきた人がいる、というのが条件だ。受講の上限は150時間。教材も受講料も受講者の負担はないが、パソコンなどの機器や通信環境は、自治体などの支援を想定している。少人数制で、留学志向と違って生活する上で必要な日本語の表現を重視する。人数が増えれば、随時新たなクラスを開くという。

さて、話が少し変わりますが、今年、ウクライナ避難民に対するオンライン日本語教室支援について文化庁から依頼がありました。なぜ本校に依頼があったのかを伺ったところ、①難民等に対する日本語教育実績を有すること、②ウクライナ難民の受け入れ実績を有すること、③オンラインによる有料の日本語教育プログラムの実施実績を有すること、④法務省告示校の場合、適正校であること、その要件に合致したため、本校に依頼したそうです。その様子は朝日新聞やNHKニュースで報道されました。

新聞記事に掲載されたのは「家」という漢字を教えている場面でした。授業のその場面では、「いえ」、「私のうち」、「お宅」という単語の意味を一度に教えているところでした。これは、先ほど、動詞のところ、
「食べますいただきます/召し上がります」とセットのようにしているということを書きましたが、それと同じように、名詞も「家/うち/お宅」のようにセットで教えています。さらに、たとえば、このような例では、「つま/家内/奥さん」のようにセットで教えています。

この場合、「居る」という動詞は、「います」、「おります」、「いらっしゃいます」、の3つの使い方を教えます。

これらを合わせると次のようになります。

- ①（自分に関して）家内はうちにおります。
- ②（相手に関して）奥様はお宅にいらっしゃいますか。
- ③（新聞記事のようにニュートラルな例）〇〇さんの妻は家にいました。

このように、自分に関する話と、相手に関する話、そして、新聞記事のようなニュートラルな表現で日本語の場合はパターンが綺麗に分かれています。

私は日本人自身が既に分かれている日本語を、「敬語」や「尊敬語・謙譲語」などと呼ぶことで複雑にしているように感じています。日本人自身が日本語を複雑であると認識してしまうと、そちらに引かれて外国人も混乱します。

笑い話のようですが、箱根などに行った学生が翌日、A先生に「先生、これ召し上がってください」と言い、B先生には「先生、これ食べてください」と言ったことがありました。学生をそっと呼んで、「先生には皆『召し上がってください』って言うべきです」と言ったところ、「僕は、A先生は尊敬していますが、B先生は、ちょっと…」と言ったので驚いたことがありました。実は、当時私達が使っていた教科書には、英語で *respectable expression* と書いてあったので、彼が言うことも一理はあったような気がしていました。まだ、現在のような教授法を使っていなかった頃の話ですが。

外国人が日本語学習の初級の段階で正しい理解ができると、ずっと正しい日本語が使えます。しかし一度、入門期や初級で習った日本語の内容を途中で変更するのは、かえって困難になってしまいます。私は外国人により良い日本語を覚えてもらうために、なるべく印象に残るような映像の開発、指導方法に関する研究への努力を続けています。

【日本語の起源とは】

外国人に日本語を教える時に、初めに日本語とはどのような言語かを紹介すると学習効果が上がります。そうしたことに付いて少し話させていただきます。

日本語の成立に関して、歴史過程が一番似ている言語は英語だと思います。英語とは、元々ケルト系の言語の中にアングロサクソン系の言語が入ったり、ゲルマン系の言語やフランス語の原型の言葉が入ったりして成立しています。

ヨーロッパ系言語の勉強をなさった方々をご存知の通り、大陸の英語以外のすべての言語には女性名詞・男性名詞等がありますが、英語に限っては、そうした品詞の性別というのは何ともありません。その理由は明確で、ある単語がゲルマン系の言語では男性名詞なのに、ラテン系の言語では女性名詞といった相違が多くあったためです。

そうした区別は英語の中に入ってきた時に言語遭遇を起こし、互いに混乱を防ぐために、無くなってしまったという訳です。同時に、人称変化の複雑さも解消されました。

英語では、発音も単純化していて、ドイツ語やフランス語にある複雑な発音はありません。複雑な発音と単純な発音が合うと、必ず単純な方へ引かれるという原則があるためです。例えば単純な算数では $90+70=160$ となりますね。しかし実はこのような結果にならないケースもあるのです。それは 90°C のお湯と 70°C のお湯を足したら、結果として 80°C のお湯になるようなものです。

実は日本語もこれらと同じ経緯がありまして、日本語の起源は諸説あるものの「古極東アジア語」系の言語を基に形成された言語に、インドネシア系言語の影響もあると言われています。その一例として同じ言葉を繰り返す、「畳語（たたみご・じょうご）」というものがあります。例えばインドネシア系言語でジャランは道路の意味ですが、ジャランジャランと重ねると歩いて行くという意味に変わります。2つ以上重ねて言うと複数を表す言葉もあります。オランというのは人という意味ですが、オランオランと重ねることで、人々を表す単語になります。ついでのことながら、森（ウータン）に住んでいる人（オラン）を表す言葉がオラウータンという単語になりました。少し覚えやすくするために例として上げさせていただきました。

さて、中国は秦の時代等にどんどん拡大し、周辺に住んでいた人々の一部は日本へ移動しました。そのため日本語は中国系の言葉やビルマ系の言語の影響も受けています。実際に本校の日本語のクラスに、ビルマつまり現在のミャンマー出身の学生がいると、日本語の会話の上達は非常に早いです。それは語順も助詞も日本語と同一だからだと思います。ただ、ミャンマー語は声調言語なので、ミャンマーの方が日本語を覚えるのは簡単なのですが、日本人がミャンマー語の発音を勉強するのはとても難しいのが残念な処です。

イノベーションこそが未来を開く

日本語教師が持っていた方がいい知識

1 日本語の本質を理解すると、教えることが見えてくる

言語遭遇の結果

- 文法は単純になる
- 発音は単純になる
- 語彙・表現は複雑になる
- 〔日本語の場合〕
中国の漢字を導入したため、複雑になった。
いい表現を使えば、豊富になったと言える。

日本語は形成過程から考えると、非常にシンプルな言語として出来上がったであろうと思っています。しかしながら中国の漢字の影響が大きく、漢字が入ってきたために良かれ悪しかれ複雑化したと考えられます。地政学に考えると、インドネシアも日本もユーラシア大陸の両側にある島国です。しかしより直接的に漢字文化を受け入れたという意味で、日本語は特徴的であると思います。そして、ひらがな、カタカナの誕生も含め、豊富な表現も生まれました。

その他、スラブ語の影響もあります。これは、ウクライナの学生に日本語を教えることとなり、気が付いたことです。ウクライナ語やロシア語は、ヨーロッパ系言語と日本語の間のようなイメージを感じることがあります。それは、日本語が「どこへ」とか「バスで」のように、助詞だけで関係性が語れるのと同じような表現で会話が可能なことからです。

英語やフランス語は最初に主語があるという文型で出来上がっていますが、日本語はご存知の通り文型が決まっていません。例えば、「あなたと私は公園へ行きます」という文章が、「行くよ、公園へ」という一言で通じてしまいます。さらに簡単に話す時は、書いた？聞いた？という短い単語だけで通じます。日本語は動詞が最後に来ると言われますが、実際には使用しておらず、それは改まった場面や正書の時だけ

の話です。普通の日本人同士の会話では「聞いた？あの話」で意味が通じます。

日本人は常に言いたい語順でバラバラに話していますが、驚くことにスラブ語系の言語も日本語と似たイメージがあるのです。スラブ系の言語を使用している、例えばウクライナの人に日本語を教える場合は、同じ言語背景にあるのを理解していないと無駄な努力を強いることになります。私は地域性や言語背景を意識し、知識を持つことが必要だと考えています。

ところで、英語も日本語も文法も発音も単純なのですが、語彙や表現はかなり複雑になっています。例を挙げると、中期英語では昔、豚のことを「ピッグ」と呼んでいました。ところが 1066 年にフランスによるイングランド征服後は、イングランドの宮廷内もフランス語を使用するようになりました。その頃、フランス語で豚は「ポルコ」と呼んでいました。そこで、宮廷内で言葉の使い方と街中での言葉の使い方に行き違いが起ってしまったのです。そこで最終的に宮廷で調理した後の豚はポーク、調理前の豚は街にいるからピッグと区別するようになったのです。こうしたところに、多くの言葉が流入した英語や日本のような集合言語の特徴があるのだらうと思っています。

【日本児童の漢字学習の特徴】

さて、中国語の近代インフラ系の、かなりの言葉は日本語から発生しています。例えば中国語の「服務中心」は、「服務」も日本語、「中心」も日本語です。

「中華人民共和国」の漢字の、「人民」も「共和国」も元々日本語で英語から翻訳に利用したものです。そのため中国人学生が日本語の試験を受ける際は、読解のテストの方が簡単に答えられます。漢文ではないのに、日本語にも漢字だけで書かれた文があります。例えば「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究支援研究部特別支援学校教育担当上級総括研究員」というのは、実際にある日本で一番長い漢字の役職名だそうです。一見、何語か分かりませんが、日本語を一度も習ったことのない中国人が見れば、内容を推測できると思います。

また、日本の小学生児童の学習対象の漢字は 1026 字となっているのに対し、簡体文字を利用している中国の児童の学習漢字数は 4718 字、繁体文字を利用している台湾と香港の児童は 3000 字を学習します。

比べると日本の児童が覚える漢字の数 1026 字は圧倒的に少ないように見えますが、日本の漢字には、ほぼ 1000 字の音読みと 1000 字の訓読みが存在します。そして、音読みには「呉音/漢音/唐音/宋音」があります。

極端な例で「生」を挙げてみます。

呉音「ショウ・ジョウ」、漢音（セイ・ゼイ）、唐音（サン）、呉音例「一生・誕生・立ち往生」、漢音例「人生・平生・厚生労働省・生存」、唐音（例外的使用：ソモサン〔作麼生〕）

以上、五例です。

しかし、訓読みや人名となると話が変わります。1「生（い）きる/かす」2「生（う）む/まれる」3「生（は）える/やす」4「生（お）い立ち」5-1「生（き）蕎麦」「生一本（き一本）」5-2「生（なま）蕎麦」「生（なま）ビール」6「芝生（ふ）」7「鈴生（な）り」、8「生田（いくた）」9「生垣（いけがき）」10「生憎（あいにく）」11「生粋（きっすい）」12「生方（うぶかた）」13「相生（あいおい）」14「生業（なりわい）」15「壬生（み）ぶ」16「弥生（やよい）」17「桐生（きりゅう）」18「羽生（はにゅう）」

以上、「生」という漢字の（一例ではありませんが、）一例です。

さらに、「今日」と書いて「きょう」と読ませるような、大量の熟字訓も学習する必要があります。

中には、市場と書いて「いちば」と「しじょう」と使い分けるような熟語もあり、両方覚えるのは相当に難しい学習としか言えません。

しかし逆に、もう少し踏み込んでみると、相当量の日本初の熟語が海外に行き渡っているのです。

例えば飛行機を韓国語で発音すると「飛（ピ）・行（ヘン）・機（ギ）」ですが、中国語で発音した場合は「飛（フェイ）・行（シン）・機（チー）」となります。日本人小学生は音読みと訓読みができるのですから、さらに韓国語読みと中国語読みを同時に教えたら、小学校の時から国際人になる可能性があると思います。

【日本語の知識を教育へ生かす】

日本で生まれ、中国語になった言葉を集めた辞典もあります。中国人が研究して作成し使用している辞書です。これは中国語と日本語だけの比較をしたものです。

ところが、日本人が編集したものとすると、中国語だけを対象としたものに限りません。

ベトナムも1945年までは漢字文化圏でした。例えば日本で明治時代に生まれた「注意」という言葉は、中国、韓国、ベトナムへも広がっていきました。「電話」や「入口」という単語も同様に元々日本語です。

今日私が紹介した日本語の特徴は一例に過ぎません。私は、もっと日本人に日本語の知識があれば、外国人を様々なアプローチで理解する事が出来るはずであり、勿体無いことだと思っています。

今後はもっと日本語教育というものを重要視し、社会的にも認めて頂きたいと願っています。

私からのお話は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

